

<< 注 意 報 >>

岡 病 防 第 5 号
令和 2 年 5 月 13 日

各 関 係 機 関 長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報の発表

病虫害発生予察注意報第2号を下記のとおり発表したので送付します。

令和2年度病虫害発生予察注意報第2号

令和 2 年 5 月 13 日
岡 山 県

病虫害名 **果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ）**

1. 発生が予想される地域
県内全域のモモ、ナシ等

2. 発生が予想される時期
5月下旬～8月上旬

3. 予想される発生量
多

4. 注意報発表の根拠

- (1) 赤磐市の集合フェロモントラップにおける5月1～10日のチャバネアオカメムシ誘殺数は583頭と平年(99.3頭)より多い。また、予察灯における5月1～10日のチャバネアオカメムシ誘殺数は37頭と平年(8.2頭)に比べ多い。
- (2) 予察灯における5月の誘殺数と7月の誘殺数の間には高い正の相関($r^2=0.9413$ 、岡山県病虫害防除所直近10年のデータによる)があり、今後さらに増加する恐れがある。
- (3) 5月8日の巡回調査におけるモモでの被害程度は軽微であったが、被害発生圃場率は、17.8%と平年(2.5%)より高い。

5. 防除対策及び防除上の参考事項

- (1) 広島地方気象台が4月25日に発表した3か月予報によると、今後の気温は高いとされており、気温上昇に伴いカメムシ類の活動が活発になり果樹園への飛来が増加すると考えられる。
- (2) モモ、ナシでは「袋掛けまで」と、「袋掛け後の肥大～成熟期（袋と果実が密着し、カメムシ類が袋の上から吸汁可能となる）」の果実被害が懸念される。
- (3) 幼果期から収穫期まで、カメムシ類の発生に応じて薬剤散布を行う。モモ、ナシにおける防除薬剤は表1及び表2による。
- (4) 袋掛け作業を遅れないように行う。
- (5) 黄色灯の点灯はチャバネアオカメムシに対して忌避効果がある。ただし、クサギカメムシには効果がないこと、カメムシの発生が多いと十分な効果を得られないこと等から、薬剤防除を徹底する。

- (6) 樹全体に目合い4mm以下のネットを掛けてカメムシ類の寄生を防ぐ。ただし、すでにカメムシ類が寄生している樹にネットを掛けると大きな被害を受けるので、網掛け前に薬剤散布を行う。
- (7) 薬剤の散布にあたっては農薬使用基準を順守し、人畜、水産動物等への危害防止に努め、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ飛散しないよう十分注意する。
- (8) 最新の農薬登録情報は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターホームページ (<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>) で確認できる。

表1 **モモ**のカメムシ類の防除に使用する主な薬剤（令和2年4月8日登録状況確認）

農薬の名称	農薬使用基準			IRAC ²⁾ コード	
	使用時期	希釈倍数	使用回数		
アーデント水和剤 ¹⁾	収穫前日まで	1,000倍	3回以内	3A ³⁾	
アーデントフロアブル ¹⁾	収穫前日まで	2,000倍	3回以内		
アグロスリン水和剤 ¹⁾	収穫前日まで	2,000倍	5回以内		
アディオン乳剤 ¹⁾	収穫7日前まで	2,000倍	6回以内		
テルスター水和剤 ¹⁾	収穫14日前まで	1,000倍	2回以内		
テルスターフロアブル ¹⁾	収穫前日まで	3,000倍	2回以内		
MR.ジョーカー水和剤	収穫前日まで	2,000倍	2回以内		
アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内		
アドマイヤー顆粒水和剤	収穫3日前まで	5,000～10,000倍	2回以内		
アドマイヤー水和剤	収穫3日前まで	1,000倍	2回以内		
アドマイヤーフロアブル	収穫3日前まで	5,000倍	2回以内		4A
スタークル/アルパリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内		
ダントツ水溶剤	収穫7日前まで	2,000～4,000倍	3回以内		
モスピラン水溶剤/顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000～4,000倍	3回以内		
テッパン液剤	収穫前日まで	2,000倍	2回以内		28

1) 水産動植物に対して毒性があるため養魚場周辺などで使用しない。

2) IRACによる農薬有効成分の作用機構の分類。

3) IRACコード3Aは合成ピレスロイド系で天敵類への悪影響が大きく、ハダニ類、サビダニ類を多発させる恐れがあるので多用を控える。

表2 ナシ(有袋栽培)のカメムシ類の防除に使用する主な薬剤(令和2年4月8日登録状況確認)

農薬の名称	農薬使用基準			IRAC ²⁾ コード
	使用時期	希釈倍数	使用回数	
アーデントフロアブル ¹⁾	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	3A ³⁾
アーデント水和剤 ¹⁾	収穫7日前まで	1,000倍	3回以内	
アグロスリン水和剤 ¹⁾	収穫前日まで	1,000~2,000倍	3回以内	
アディオフロアブル ¹⁾	収穫前日まで	1,500倍	2回以内	
アディオ乳剤 ¹⁾	収穫前日まで	2,000倍	2回以内	
サイハロン水和剤 ¹⁾	収穫7日前まで	2,000倍	3回以内	
スカウトフロアブル ¹⁾	収穫前日まで	1,500倍	5回以内	
テルスター水和剤 ¹⁾	収穫前日まで	1,000~2,000倍	2回以内	
テルスターフロアブル ¹⁾	収穫前日まで	3,000~6,000倍	2回以内	
マブリックEW/水和剤 ^{20 1)}	収穫30日前まで	2,000倍	2回以内	
ロディー水和剤 ¹⁾	収穫前日まで	1,000倍	2回以内	
MR.ジョーカー水和剤	収穫14日前まで	2,000倍	2回以内	
アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
アドマイヤー水和剤	収穫3日前まで	1,000倍	2回以内	
アドマイヤー顆粒水和剤	収穫3日前まで	5,000~10,000倍	2回以内	
スタークル/アルパリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	4A
ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2,000~4,000倍	3回以内	
バリアード顆粒水和剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
ベストガード水溶剤	収穫14日前まで	1,000~2,000倍	3回以内	28
モスピラン水溶剤/顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000~4,000倍	3回以内	
テッパン液剤	収穫前日まで	2,000倍	2回以内	1B
エルサン水和剤40	収穫60日前まで	800~1,000倍	2回以内	
スプラサイド水和剤	収穫7日前まで	1,500倍	3回以内	
スミチオン水和剤40	収穫14日前まで	800~1,000倍	6回以内	
スミチオン乳剤	収穫14日前まで	1,000倍	6回以内	

1) 水産動植物に対して毒性があるため養魚場周辺などで使用しない。

2) IRACによる農薬有効成分の作用機構の分類。

3) IRACコード3Aは合成ピレスロイド系で天敵類への悪影響が大きく、ハダニ類、サビダニ類を多発させる恐れがあるので多用を控える。

(参考) この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

